

# 亀山で見つけた、私の暮らし

特集

## 緑豊かなちょうどいい田舎で 心も、暮らしも、健やかに

全国各地で少子高齢化と人口減少が続いている中、市では、平成28年2月に「第1期亀山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して以来、移住に関する取り組みを進めるなど、さまざまな人口減少対策に取り組んできました。この結果、総人口は減少傾向にあるものの、転入者が転出者を上回る「社会増」が続き、亀山を“選ぶ”人の増加につながっていると考えられます。

なぜ、亀山市が選ばれているのか ―

今回の特集では、市の移住に関する取り組みと、亀山に移住された皆さんのお話を紹介します。そこには、私たちがまだ知らない亀山の魅力がたくさんありました。

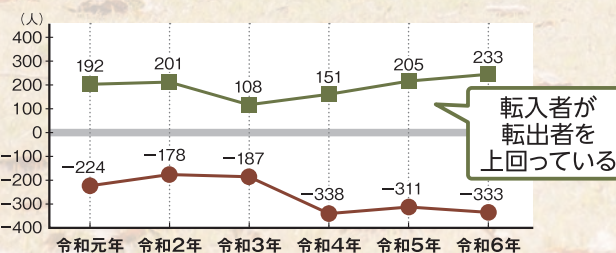
問合先 政策推進課政策調整グループ ☎84-5123

移住者である福島さんご家族。木々に囲まれ、四季の移り変わりが身近に感じられるご自宅で、夏季には庭でバーベキューやキャンプを楽しんでいます。



### ■亀山市の人口増減(自然増減と社会増減)の推移

■社会増減…「転入数」と「転出数」の差による人口変動  
●自然増減…「出生数」と「死亡数」の差による人口変動



### 亀山市民はこう感じています

#### ■亀山市を住みやすいと感じますか？

はい 26.9%    どちらかといえばはい 38.6%    その他

#### ■亀山市に愛着を持っていますか？

はい 29.1%    どちらかといえばはい 35.8%    その他

#### ■将来も亀山市に住み続けたいと思いますか？

ずっと住み続けるつもり 51.3%    できれば住み続けたい 34.1%    その他

【参考】第3次亀山市総合計画策定に向けた市民アンケート



# 市の移住施策、いろいろあります



政策部政策推進課  
課長 藤尾 春樹

## 亀山市を選ぶ人が増えています

市では、緩やかではありますが人口減少が進行する中、本市への転入者の増加を目指し、平成28年度に移住に関するワンストップ窓口を開設し、定住支援員を中心に、移住に関する総合的な相談対応を行っています。

また、本市に関わりを持つさまざまな年代の方に、インスタグラムや移住フェアなどを通じて亀山の魅力を発信していただくとともに、本市に移住された方にも移住希望者との交流の機会を持っていただくなど、本市への移住・定住の促進につなげています。このほか、さまざまな形で亀山の魅力に触れていただくため、関係人口創出に向けた「DOMA PROJECT」にも取り組んでいます。

これらの効果により、市で把握している移住者数は毎年80人程度で推移し、令和2年度以降は相談者数・移住者数ともに大幅に増加しています。

## 移住希望者に向けた総合的な支援に取り組みます

亀山の魅力に共感いただき、移住・定住につなげるためには、よりきめ細かな支援を行うことが必要であり、その対応力が本市の強みであると考えています。そこで、移住フェアなどの機会を通じて、移住希望者が求める情報の収集に努めています。

移住を検討されている方からは、住居や就業、子育て環境、地域との関わり方などの情報が求められています。現在、市では、移住者への住宅取得の支援などを行っています。より迅速で柔軟な対応が必要となることから、今後は、関係部署と連携した総合的な支援の強化に取り組み、さらなる移住・定住の促進を図っていきます。

移住の「気になる!」に、きめ細やかに対応します。

### かめやま暮らしめぐり



移住を考える一人ひとりの想いに寄り添う“オーダーメイド型”の移住ツアー「かめやま暮らしめぐり」を実施しています。「子育て環境が気になる」、「住まいについて知りたい」、「地域の人と話してみたい」など、移住希望者の“気になる!”を、担当職員が事前にヒアリングし、ツアー日程やコースを一緒に考えるので、亀山市での生活のイメージが具体的に体験できます。



人生の大きな選択。聞かせてくださいあなたの想い。

### 移住相談窓口



亀山市への移住を希望する人のためのトータルサポート窓口を開設しています。住まい、就労、子育てなどの暮らしに関する幅広い情報の提供や個別相談を行っています。



市の支援事業など 住居や就職先、資金面もご相談ください

### 移住・就業マッチング支援事業



東京圏※から亀山市へ移住・定住した人に、移住支援金を交付しています。細かな要件がありますので、詳しくは、政策調整グループ(☎84-5123)へお問い合わせください。

●単身世帯:60万円 ●2人以上世帯:100万円

※子ども1人あたり、100万円の加算金あり

### 空き家情報バンク



空き家情報バンクとは、Uターンや移住、田舎暮らしを希望する人と、空き家の売却または賃貸を希望する人を結び付けることにより、定住を促進して地域の活性化を図ることを目的としています。詳しくは、建築住宅課住まい推進グループ(☎84-5038)へお問い合わせください。

※ここでの東京圏とは、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県(一部地域を除く)のこと。



# 亀山市を“選んだ”理由を聞きました

名古屋市へのアクセスが良いことや、地域の活性化に貢献したいという思いから地方の移住先を探す中で、亀山市が実施する「かめやま暮らしめぐり」に参加しました。実際に小学校の見学をさせてもらったり、商業施設などを案内してもらったりしたことで、亀山での生活がイメージでき、また、古民家が好きなのもあり、空き家情報バンクを活用して家族で移住しました。

亀山市は、商業施設などが手近にある生活の利便性、豊かな自然、歴史的な町並みがバランスよく共存しているのが魅力です。また、亀山の方言は、上品で柔らかい印象を受けるので好きです。都会ではないけれど、田舎過ぎるわけでもないバランスの取れたまちなので、移住するにはぴったりだと思います。

私が住む東町にある商店街も、少しずつお店などが増えて、活気が出てきているように感じます。アーケード街を散歩するのが日ごろの楽しみになっています。これからは、東町をもっと盛り上げていけるように、空き家を生かして若い人たちの移住につながる活動をしていきたいと思っています。



利便性・自然・歴史が  
調和した暮らし

令和6年3月に愛知県から移住  
佐々木 英夫さん(東町)



いろんなことが  
ちょうどいい田舎

令和6年6月に大阪府からUターン  
山路 慎也さん ご家族(関町新所)

子どもが産まれたことがきっかけで、大阪からUターンで亀山へ戻ってきました。都市部で子育てをするイメージができず、地方移住を思い立ち、漠然と「祭りがある地域がいいな」と考えたとき、頭の中に浮かんだのが自分の生まれ育ったまちでした。祭りがあることは、地域に住む人の顔が見える安心感があって住みやすさにつながると感じ、地元に戻れば両親が近くにいる心強さもあり、移住を決意しました。

交通の便が良く、大阪や京都、名古屋へ気軽に足を運ぶことができ、教育機関や商業施設もコンパクトにそろっている、その上、家の周りは静かで、落ち着いて暮らすことができる、それが亀山の魅力だと感じています。また、都市部と比べると地域の人の関わりもあり、自分たちの距離感で程よい関係を築くことができます。

その土地の魅力は、そこに住む人に表れると思います。亀山には、市のイベントや伝統的な祭りなどを通して、地域の人と出会う機会がたくさんあります。私自身も積極的に地域の行事に参加して、亀山の魅力を伝えていく存在になりたいと思います。「ちょうどいい田舎の亀山」に、たくさんの人が訪れてもらえるとうれしいです。



## 伝えたいのは亀山の“人の魅力”

東京で開催される「移住・交流イベント」のブースで来場者に亀山の魅力を紹介し、移住につなげる活動をしています。

移住イベントには、豊かな自然の中でのびのびと子どもを育てたい家族や、余生を落ち着いた田舎で暮らしたい高齢者夫婦が参加してくれることが多いです。来場者のニーズや条件を聴きながらお応えしますが、海や山かの違いはあれど、全国各地の訴求ポイントはほぼ同じなので、決め手に欠けることが課題です。だからこそ、人との出会いが移住の「鍵」だと感じ、移住希望者に亀山の“人の魅力”が伝わるような機会を提供していきたいと考えています。

亀山市は、奈良から伊勢神宮を結ぶ「大和街道・伊勢路」と京都から江戸を結ぶ東海道が交差する宿場町で、歴史が育んできた他人を思いやる「おもてなし文化」が、今なお色濃く残るまちです。名古屋・京都・伊勢に囲まれた立地は、他所にはない魅力。移住を希望される皆さんには、亀山の土地と人を見て、実際に触れて、その魅力を肌で感じていただければと思います。

亀山市移住・交流促進アドバイザーとは、移住に関する情報発信や広報活動、市や首都圏で開催される移住関連イベントの企画運営補助など、亀山市の魅力在市外から発信する人のことです。現在、亀山市には、首都圏や関西圏に在住する3人のアドバイザーがいます。



亀山市移住・交流促進アドバイザー  
**坂 忠文さん**

### Profile

亀山市加太出身。東京都町田市在住。故郷が過疎の危機にあることを受け、「何かできることはないか」と亀山市移住・交流促進アドバイザーに応募。三重と東京を行き来しながら、二拠点から見た独自の視点を生かし積極的に活動中。



東京都で開催された移住フェア

### DOMAからはじまる亀山の魅力発信

ドマプロジェクト

## DOMA PROJECT

～ みんなでつくるドマ～



市では、令和5年度に空き家活用・関係人口創出の一環として「DOMA PROJECT」(通称:ドマプロ※)を開始し、現在は、関宿の空き家「旧荘司家」(関町新所)を拠点に、地域とのつながりをつくりながら活動しています。

“DOMA”とは、かつて家の中と外をつなぐ空間であった“土間”に由来する言葉。人が集い、語らい、つながる場としての象徴です。亀山の“DOMA”も、地域と人、暮らしと想いをつなぐ場として年々進化を続け、今では亀山と世界をつなぐ場にもなっています。

※ドマプロとは、主に県外の人を中心に“外からの目線”で亀山の魅力を発見してもらい、自発的かつ即興的に対話と交流を生み出すワークショップです。

### ◎令和7年度の主な活動



関宿祇園夏まつりへ参加(7月)



フランスで開催されたセミナーで亀山の魅力を発信(10月)



東海道関宿街道まつりにて駕籠乗車体験と竹の楽器作りワークショップ&即興演奏を実施(11月)



DOMAから  
移住へ

令和6年7月に四日市市から移住  
山本 精さん ご家族(関町新所)

関宿のまちなみの落ち着いた雰囲気を感じ、市の出張相談窓口を訪れ、ドマプロを紹介してもらい参加しました。

ドマプロは、どうしたらみんなが寄り合い、楽しめるかを考えながら亀山の魅力を発見する、一種の“遊び場的な空間”だと思います。そんなドマプロに関わる中で、改めて亀山の魅力にひかれ、移住しました。これからは、歴史があるこのまちで次世代を担う若者たちとつながり、一緒に“DOMA”という場所を残せるよう、人生を歩んでいきたいと思っています。



今回の特集記事について  
感想をお聞かせください!

